

中部大学

基準4 自己点検・評価

4-1 自己点検・評価の適切性

《4-1の視点》

4-1-① 大学の使命・目的に即した自主的・自律的な自己点検・評価

4-1-② 自己点検・評価体制の適切性

4-1-③ 自己点検・評価の周期等の適切性

(1) 4-1の自己判定

基準項目4-1を満たしている。

(2) 4-1の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

4-1-① 大学の使命・目的に即した自主的・自律的な自己点検・評価

4-1-② 自己点検・評価体制の適切性

4-1-③ 自己点検・評価の周期等の適切性

本学では、平成3(1991)年の大学設置基準等の改正を受けて、同年11月、「自己点検・評価準備委員会」を設け、自己点検・評価への取り組みを検討した結果、平成5(1993)年4月に「自己点検・評価委員会」を設置し、以降、学内における自己点検・評価の実施体制の整備を行った後、平成11(1999)年度から同委員会の下で、全学的な自己点検・評価を継続的に実施している【資料4-1-1】。

平成11(1999)年度に実施した自己点検・評価では、本学で初めての全学的な自己点検・評価であったため、大学基準協会「大学評価マニュアル」を参考にしつつ、本学の組織、運営等の状況も踏まえながら、幅広く基準項目(章)を設定し、点検・評価を実施した。

次に実施した平成15(2003)年度の自己点検・評価では、本学が当面している大学改革、特に教育改革と研究活動の進展に必要な事項を取り上げ、①教員の出勤実態調査と職務遂行の評価 ②教員の教育活動に関する実態調査と評価 ③教員の教育研究行政における活動と管理運営体制の評価 ④ティーチングアシスタント(TA)の活動実態調査と評価 ⑤教育研究予算の実態調査、評価と今後の方策を重点項目として、点検・評価を実施した。

また、平成19(2007)年度に受審した財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価では、同機構が定める11の基準項目に基づき点検・評価を実施した。

こうした経緯を踏まえ、平成24(2012)年度の自己点検・評価では、平成23(2011)年度(必要な場合は、過去5年まで遡る)を基準とした本学における教育研究活動と管理運営の経過と実績を踏まえ、平成11(1999)年度の「自己点検・評価報告書 平成11年度」との対応が取りやすいように配慮して、15項目(章)からなる点検・評価を実施した【資料4-1-2】。

本学における自己点検・評価は、平成5(1993)年4月に設置した「自己点検・評価委員会」が中心となり、全学の点検評価を継続的に実施してきた。また、具体的な実施にあたっては、同委員会の下に副学長、学監、学長補佐、各学部長、各研究科長、学生教育推進機構長、教育支援機構長、研究推進機構長、法人本部長、事務局長等の主要な役職で構成する「自己点検・評価実施専門委員会」を設けることで、各部門、委員会等との緊密な連携が可能となり、効率的な点検・評価活動を実施している【資料4-1-3】。

(3) 4-1 の改善・向上方策（将来計画）

自己点検・評価の実施体制については、「自己点検・評価委員会」を中心とした体制を基本としつつ、具体的な実施に当っては、全学的な協力で一層円滑に実施できる体制を構築する。今後とも主体的でかつ持続的な点検・評価を実施し、大学の質保証につなげる。

4-2 自己点検・評価の誠実性

《4-2 の視点》

4-2-① エビデンスに基づいた透明性の高い自己点検・評価

4-2-② 現状把握のための十分な調査・データの収集と分析

4-2-③ 自己点検・評価の結果の学内共有と社会への公表

(1) 4-2 の自己判定

基準項目 4-2 を満たしている。

(2) 4-2 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

4-2-① エビデンスに基づいた透明性の高い自己点検・評価

4-2-② 現状把握のための十分な調査・データの収集と分析

4-2-③ 自己点検・評価の結果の学内共有と社会への公表

平成 5(1993)年度から、各事務部門、学部・研究科等において蓄積された教育研究実績を大学教育研究センターが中心となって調査・分析し、毎年度の学生数や教員数等の基礎データとともに、幅広くデータを収集・整理した『教育・研究活動に関する実態資料』（以下「実態資料」という）を刊行し、学内で共有・活用している。これまでに本学が実施してきた自己点検・評価においては、それぞれ実施する時期の学内外の状況を踏まえつつ、「実態資料」を点検・評価の根拠となるエビデンスとして活用し、本学の教育活動の改善・改革や研究活動の進展に資するよう努めている。また、教員の業績は、「実態資料」における「Ⅱ 研究活動 1. 著書・学術論文・研究発表の状況」の詳細の内容を別冊としてまとめている【資料 4-2-1】。

本学は、『魅力ある授業づくり』への取り組みとして、随時「授業改善アンケート」を実施するとともに、学期末には「学生による授業評価」「教員による授業自己評価」を実施し、回答率や平均ポイント等を Web 上で学内外に広く公表している【資料 4-2-2】。また、各種委員会の活動については、毎年度各種委員会の活動報告を収集し、学内に公表・共有している【資料 4-2-3】。

平成 11(1999)年度に自己点検・評価を実施し、その点検・評価結果を、「中部大学自己点検・評価報告書 平成 11 年度」にまとめ、学内外に公表した。その後、平成 15(2003)年度に自己点検・評価を実施し、その点検・評価結果を、「中部大学自己点検・評価報告書 平成 15 年度」にまとめ、学内に公表した。

また、平成 19(2007)年度に財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価の受審に伴って全学で点検・評価を実施し、「中部大学自己評価報告書」にまとめた。この自己評価報告書は、財団法人日本高等教育評価機構の認定を受けた後、ホームページ等により学内外に公表した。

中部大学

こうした経緯を踏まえ、平成 24(2012)年度に自己点検・評価を実施し、その点検・評価結果を、「自己点検・評価報告書 2012 年度」にまとめ、本学のホームページ等により学内外に公表した。なお、この自己点検・評価報告書の各章を要旨（評価と改善方策）にまとめ、抜刷りを全教職員に配付し、今回の自己点検・評価における課題等を共有した【資料 4-2-4】。

これまで実施してきた自己点検・評価において設定してきた点検評価・項目は、点検・評価を実施した時期の学内外の状況を踏まえて、適切に設定されている。こうした点検・評価項目に基づき実施した点検・評価によって指摘された問題点等について、関係する各部門、各常置委員会等により全学的に改善策等を講ずることによって、教育改革を始めとする本学の教育研究活動の改善・改革や研究活動の進展に寄与している。

(3) 4-2 の改善・向上方策（将来計画）

点検・評価項目の設定は、本学を取り巻く状況を踏まえて適切に設定されてきたが、今後、本学を取り巻く社会の変化は厳しさを増すことが予想される。今後とも学生数や教員数等の基礎データに加え、教育活動や研究活動等のデータを的確に収集・整理していくとともに、こうした社会の変化を的確に分析し、社会の要請に速やかに対応するための情報収集に努める。

4-3 自己点検・評価の有効性

《4-3 の視点》

4-3-① 自己点検・評価の結果の活用のための PDCA サイクルの仕組みの確立と機能性

(1) 4-3 の自己判定

基準項目 4-3 を満たしている。

(2) 4-3 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

本学では、これまでに実施し、まとめた「自己点検・評価報告書」の各基準や「自己点検・評価報告書 2012 年度」の各項目（章）に記述した改善・向上方策（将来計画）は、学内外への約束事であるとの認識に立ち、以降、同報告書に記述した事項に関係する教学部門、管理部門、「大学協議会」の下に置く常置委員会および時限設置した委員会等において、全学的に具体的な改善・向上方策の検討、実施を進めてきた。

この改善・向上方策の具体的な実施状況については、担当した各部門、委員会等において毎年度点検・評価を行い、継続して改善・向上方策の検討、実施を行ってきているが、「自己点検・評価委員会」においても、同委員会の専門委員会である「自己点検・評価実施専門委員会」に「改善・向上方策に関する検討ワーキンググループ」を設置し、同ワーキンググループのメンバーを責任者として、平成 23(2011)年度までは毎年度 11 の基準ごとの、平成 24(2012)年度からは 15 項目（章）ごとの進捗状況（検討内容、具体的に実施した内容、今後の予定）の確認を行ってきた【資料 4-3-1】。

平成 19(2007)年度に受審した大学機関別認証評価において作成した「自己評価報告書」の各基準や「自己点検・評価報告書 2012 年度」の各項目（章）に記述した改善・向上方

中 部 大 学

策については、上述したとおり、基準や項目（章）ごとに関係する教学部門、管理部門、常置委員会等において具体的に検討、実施した上で、点検・評価を行い、新たな改善・向上方策の検討、実施へと繋げてきている。また、「改善・向上方策に関する検討ワーキンググループ」のメンバーを責任者として、各基準や各項目（章）の進捗状況を確認することで多面的な状況把握ができ、全学的に PDCA 論に準拠した継続的な改善・向上の仕組みが確立している【資料 4-3-2】。

(3) 4-3 の改善・向上方策（将来計画）

平成 19(2007)年度に受審した大学機関別認証評価において作成した「自己評価報告書」の各基準ならびに「自己点検・評価報告書 2012 年度」の各項目（章）に記述した改善・向上方策の具体的な検討およびその進捗状況（検討内容、具体的に実施した内容、今後の予定）については、着実に成果をあげている。本学を取り巻く状況の変化や社会の要請を的確に捉え、さらなる改善・向上方策の検討、実施を行う。

【基準 4 の自己評価】

本学における自己点検・評価は、大学設置基準で努力義務として定められて以降、平成 5(1993)年 4 月に設置した「自己点検・評価委員会」が中心となり、全学の点検・評価を継続的に実施してきた。具体的な実施にあっては、同委員会の下に「自己点検・評価実施専門委員会」を設けることで組織的・効率的な点検・評価活動が実施できている。

また、「自己点検・評価実施専門委員会」の下に「改善・向上方策に関する検討ワーキンググループ」を設け、毎年度点検・評価を行い、継続的に改善・向上方策の検討、実施を行ってきており、全学的な PDCA サイクルの仕組みが確立し、有効に機能してきている。

長年にわたり継続して、大学の実情把握のために必要な調査・分析と基礎データや資料を収集・整理しており、それらを活用した自己点検・評価の結果を、ホームページ等を通じて学内外に公表している。

これらのことから基準 4「自己点検・評価」の基準は、満たしていると判断する。